



小城市立歴史資料館 ✿ 中林梧竹記念館だより

小城の歴史講座が開催されました

5月21日(土)に小城市立歴史資料館において小城の歴史講座「肥前千葉氏の足跡」を開催しました。併せて千葉氏関連の展示の説明も行いました。



▲講演会の様子



▲テーマ展「肥前千葉氏の足跡」展示の説明

令和4年度 中林梧竹記念館 第2期収蔵品展 「日本梧竹の書」開催します

中林梧竹翁の「日本梧竹」の印を使用した作品の展示を行います。

「日本梧竹」の印は梧竹翁が明治30(1897)年に清国を再訪した際に清国の篆刻家石竹齋によってつくられたものです。

◆期間 8月6日(土)～11月13日(日)

◆場所 中林梧竹記念館 常設展示室

◆観覧料 200円(大学生以下無料)



▲「日本梧竹」印

おぎの歴史 ✿ 探検隊

小城の“まつり”〈その1〉～沖の島まいりと太鼓浮立～

陸上でのまつりと違い、実際に見ることが難しい“まつり”が芦刈町に伝わっています。

有明海には海岸からは姿の見えない小さな岩礁があります。この岩礁は「沖の島」といい、毎年旧暦6月19日に芦刈や鹿島、太良などの港から数十隻の船がこの島を目指します。

今からおよそ350年ほど前、日照りが続き大不作が心配されるほどの干ばつの年がありました。干ばつを憂いた「おしま」という少女が雨ごいのため身を投げたところ、願いが届き田畑に恵の雨をもたらしたそうです。「おしま」の身が流れ着いた場所が「沖の島」だったことから、彼女の行動に感謝した人々はこの島に祠を建て彼女の霊を鎮めるとともに、豊作や豊漁、家内安全を祈願して参詣が行われるよう

になったと伝わっています。

「沖の島まいり」では、のぼりや提灯で飾り立てた船に乗り込み、笛の音に合わせて太鼓を勇壮に鳴らし掛け声とともに囃したてながら宵の口に船を出します。潮の流れに乗った船が島に着くのは早朝になります。人々は競って島に上がり「おしまさん」を祀る祠にまいり太鼓浮立を奉納します。

豊作や豊漁を願い、沖の島には今年も勇壮な太鼓浮立が響き渡ります。(続) 小城郷土史研究会/著



▲沖の島

◆開館時間 9時～17時

◆休館日 毎週月曜日・祝日

小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財

検索

【問合せ・申込み】 歴史資料館 文化課(桜城館2階) 担当 下川・永田 ☎71・1132